



女性の活躍を阻む「固定的な性別役割分担意識」をどう変えるか
— 地方の女性の声と地域の意識データから考える、これからの啓発・情報発信 —

第6回 地域働き方・職場改革等推進会議
2026/9/8（火）14:00-14:40
地方女子プロジェクト代表 山本蓮

地方女子プロジェクトのインタビューから見えてきた課題

家族や地元にバレたらどうしよう…

顔を隠して・声を変えてください

顔出しOKは1割程度

地方の女性は、地域の人間関係や固定的な価値観への不安から、声を上げること自体にハードルを感じている。
声が上がらなければ、課題として認識されない。



心理的安全性がある中で調査が実施されることが重要
また、その環境を確保できるインタビュアーの育成が重要

地方女性を取り巻く3つの壁

- ① 声を上げづらい→ 課題が見えなくなる
- ② 固定的な性別役割分担意識が残る→ 世代間ギャップも大きい
- ③ 意思決定層に若い女性が少ない→ 女性の経験が政策に反映されにくい

「声が見えない」 × 「意識が変わらない」 × 「意思決定に届かない」

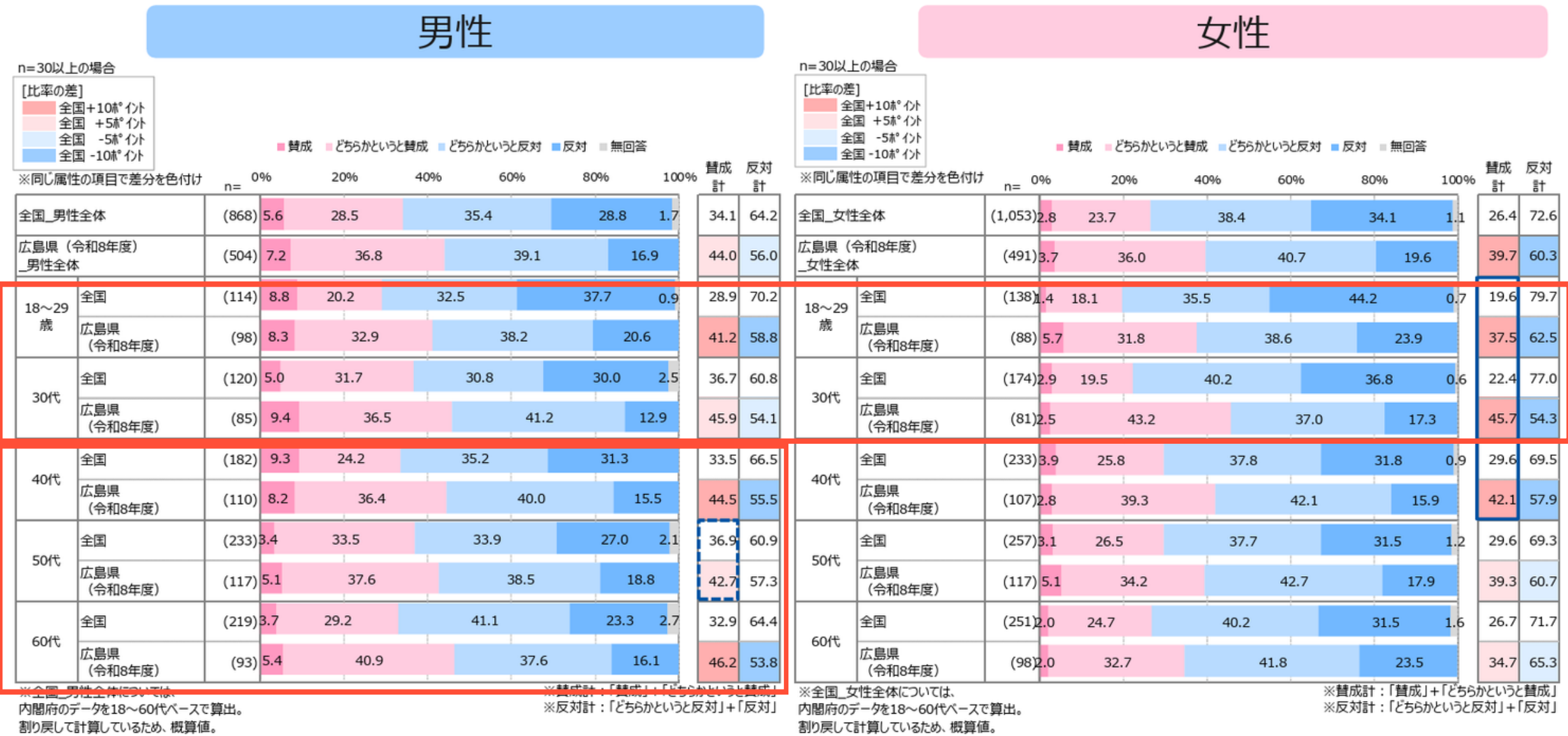
固定的意識×ジェネレーションギャップ

【性年代別】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」への意見

- ✓ 年代別×男性でみると、男性50代以外は全国より「賛成計」が10pt近くかそれ以上高い。男性50代は他の年代に比べると全国と差が小さい。
- ✓ 年代別×女性でみると、女性40代以下は全国より「賛成計」が10pt以上高い。

Q5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。次の中から、あなたの気持ちに近いものを1つだけ選んでください。

SA



・ 30代～60代男性では40%以上が賛成
→2-3人に1人から固定的性別役割分業意識に基づいた言動を受ける可能性

・ 20代・30代でも男女ともに
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」への賛成意識が全国平均より10ポイント以上高い

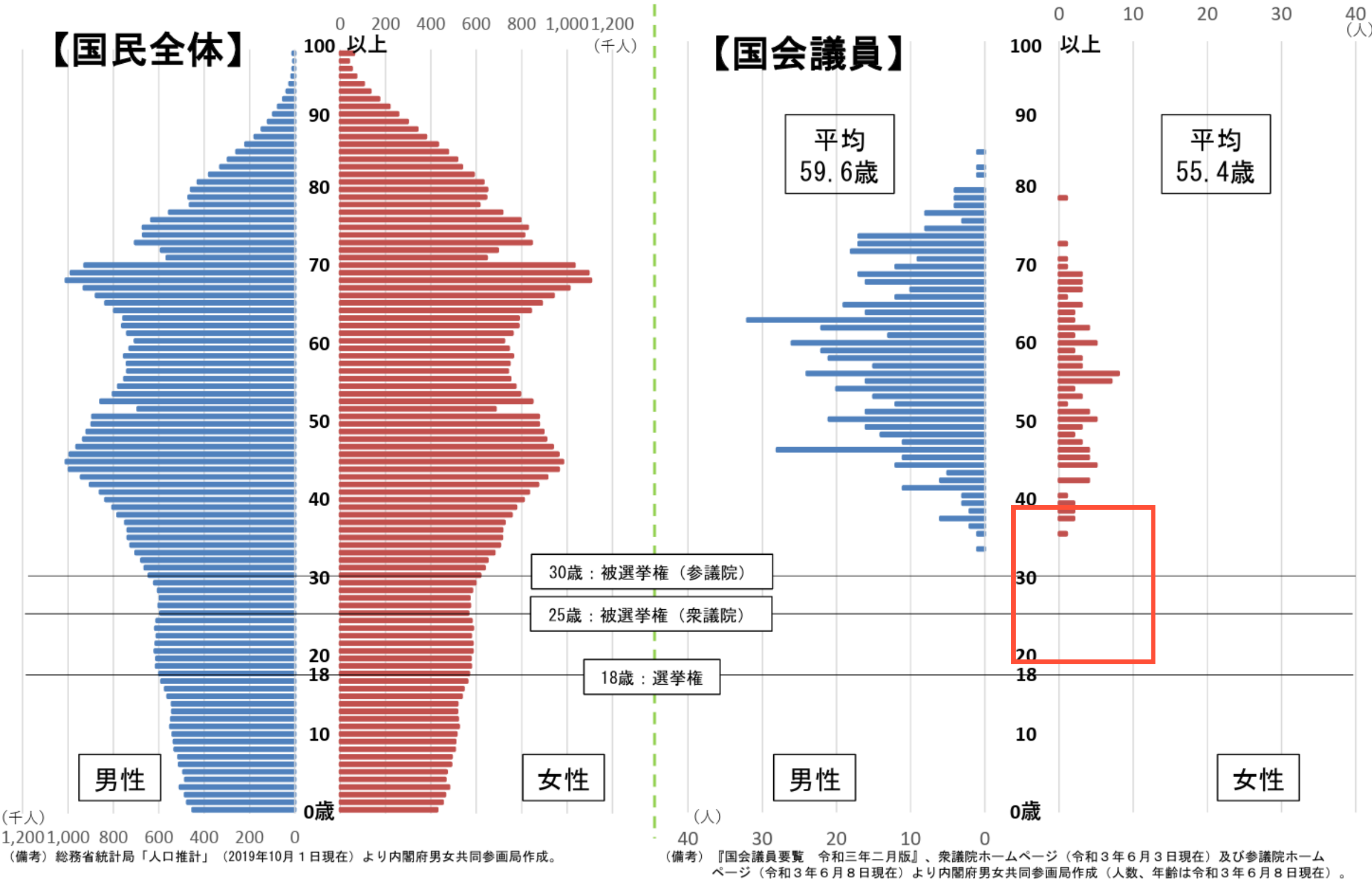
【出典】広島県 令和8年度男女双方の意識改革に係る調査結果について
～性別に係る固定観念の解消に向けて～
掲載日2026年8月25日

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/680194.pdf>

意思決定層に若い女性は特に少ない

我が国国民と国会議員の性別・年齢構造

○国民全体の性別・年齢構造に比べて、国会議員は女性・若い世代が少なくなっている。



【出典】内閣府男女共同参画局
我が国国民と国会議員の性別・年齢構造
https://www.gender.go.jp/policy/positive_act/pdf/sankou1_03_07.pdf

意思決定層に若い女性は特に少ない

全国市議会議員

1 議員の年齢構成

性別	議員数	年 齢 構 成							平均年齢 (非公表の議員を除く)
		30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満	70～80歳未満	80歳以上	
男性	14, 525	81	783	2, 049	3, 356	4, 659	3, 299	298	60. 1
(割合)	79. 3%								
女性	3, 802	23	231	692	1, 073	1, 267	490	26	57. 5
(割合)	20. 7%								
合計	18, 327	104	1, 014	2, 741	4, 429	5, 926	3, 789	324	59. 6
(割合)	100%	0. 6%	5. 5%	15. 0%	24. 2%	32. 3%	20. 7%	1. 8%	

(4) 女性の活躍を阻む固定的な性別役割分担意識等の解消・効果的な啓発手法等の検討や情報発信、取組参加自治体の事例に関する情報発信を行う。

提案①全国で性別・年代別「意識の見える化」を

広島県のように、性別・年代別の固定的性別役割分担意識を全国で調査する。

→ 地域ごとの課題を可視化

→ 誰に、どんな啓発が必要なのかを明確にする

提案②「意思決定者が声を聞きに行く」意識改革へ

首長・経営者等が、若い女性との車座・意見交換会を実施

→若い人にも取り組みを知ってもらう

→まずは総理大臣が指揮をとり、高市内閣にも車座を開いていただくことを期待する
先行事例

- ・「若者・女性にも選ばれる地方」に関する車座〈政治分野〉
- ・ひょうご・こうべ女性活躍推進企業「企業×学生ミモザセッション」〈企業分野〉

